令和5年度卒業研究　石原研究室

女性アイドルのイメージの類型化とステージ衣装の制作

A20AB095　中山　委音奈

1．はじめに

近年、テレビやインターネットで多くの人気を得ているアイドルは1970年代頃から発足し、年々その規模は拡大している。

特に2020年からは、新型コロナウイルスの流行が我々の生活に大きな影響を及ぼし、消費行動の傾向においても大きな変化が見られた。動画や電子書籍、漫画など自宅で楽しめるコンテンツに関心が向き、自分自身よりも自分が好きなことやモノにかける消費が増えたといえる。さらに、SNS上では各自の推しに対する共感・発信によるコミュニティの構築が加速した。

アイドルはタレント個人やそれぞれの良さ・個性、楽曲のコンセプトに合わせ、オリジナル衣装を着用する。このような衣装の多様化は、グループとタレントの個性を引き出すだけでなく、パフォーマンスをより良く見せるという目的もあると考えられる。アイドル衣装は、アイドルグループの特徴を表現するためにデザインされた衣服であり、アイドルにとって衣装は単なる身に纏うものを超えて、非常に重要な役割を担っている。各グループが目指すべきアイドル像を象徴するような、特色ある衣装が多く生まれている。

アイドルを応援するという「推し活」という言葉が誕生し、その推し活は1人あたりの消費額も大きく、市場において数百億円ともいわれる経済効果を生み出している。推し活では、自分が欲しいものでなくとも「売上＝推しに貢献できる」と考えてそれぞれが消費行動を起こし、経済的にも大きな流れを作っている。

2．アイドルについて

アイドル(idol)とは、「崇拝される人・もの、偶像。あこがれのまと。」という意味である。

乃木坂46や欅坂46、ジャニーズ系などアイドルグループのファンは、新曲が発売されると組織的にCDを買い占め、互いに協力してヒットチャート入りを後押しする。アイドルファンにとって、応援行動は使命であり、生活の一部になっている。

そして近年、特定のグループ（箱推し）やメンバー（単推し）に熱狂する集団（ファンダム）の活動が、かつてないほど活発になっている。体験消費やインターネットの発達により、「ヴァーチャルコミュニケーション」が活発となり、「応援するメンバーと直接やり取りしたい」「同じグループやメンバーを応援するファンとつながりたい」「自分に適した居場所を見つけたい」という心理が、SNS や動画アプリ・スマホ等の発展に合わせて顕在化、かつてない程の盛り上がりを見せている。

アイドルとファンの間の関係性を表す言葉として「推す」「担」が挙げられる。「推す」行為は，単に「好きになる」「ファンになる」だけではなく、「感情移入」することに相当する。「共感」のレベルから「熱狂」へ、「愛着」から「無二」へ、「信頼」から「応援」へ昇華して、ファンとなり、推しメンに対する支持を強めて行く。

3．アイドルのイメージ分類

3－1　KJ法によるイメージ分類

女子大学生10名を被験者としてKJ法により「アイドルに関するイメージ」について考えられるフリーワードを各10個、計100個のワードを図1のようにグループ化した。

KJ法の結果から、全体イメージ・デザイン・アイテム・色・ヘアスタイルにグループ化された。（図1）

【全体イメージ】
かわいい、華やか、夢、憧れ
【デザイン】
ミニスカート、パフスリーブ、へそ出し
【テクニック】
フリル、レース、パニエ、リボン
【色彩】
メンバーカラー、パステル、ピンク、白
【ヘアスタイル】
ツインテール、巻き髪

図１　グループ化したイメージワー

以上から、女性アイドルのイメージとして「ピンク」「可愛い」「ミニスカート」「フリフリ」などを制作用に抽出した。

3－2　女性アイドルのイメージ類型化

女性アイドル衣装はグループコンセプトから作られる場合が多く、衣装も系統化される。アイドルのイメージの中からカワイイ系、カッコイイ系、キレイ系の3つに絞り、そのグループのイメージとコンセプトおよび衣装を図2のようにまとめた。

①のカワイイ系では楽曲もアップテンポのものが多くアイドルとファンが一緒に楽しめる振り付けやコールをしている。そのため、可愛らしくポップな衣装で、メンバーカラーをそれぞれ纏っていることが分かる。

①カワイイ系

②のカッコイイ系では楽曲は重くメンバーの煽りを入れてライブを盛り上げている。そのため黒や赤でまとめた衣装であり、スタイリッシュである。各メンバーカラーがあるが、メンバーカラーを使用せずにデザインを変えて個性を出していることが分かる。

②カッコイイ系

③のキレイ系ではバラードや切ない歌詞の楽曲が多くメンバー数も多いため全員同じ膝丈の衣装で落ち着いた印象なことが分かる。

③キレイ系

図２　アイドルイメージの例

4.作品制作

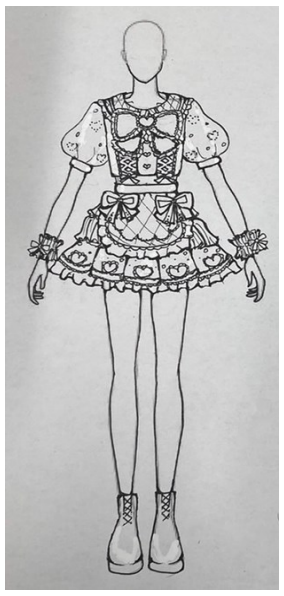
4－1　デザイン

KJ法から得たイメージと類型化したイメージからカワイイ系とカッコイイ系のふたつに絞り正反対のイメージのステージ衣装を制作することにした。

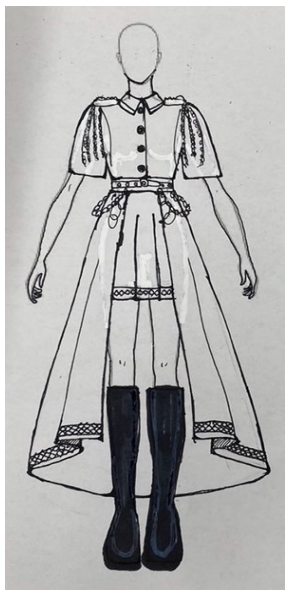
カワイイ系ではミニ丈のフレアスカートとセパレートという王道的な可愛いイメージを持たせた。色はアイドルの王道イメージであるピンクを選択した。袖は大きめのパフスリーブにし、大きめの丸襟をつけた。襟や切り替えにはフリルを使い、リボンとレースでレースアップにした。スカートはフリルを何段にも重ねてボリュームを出し、横のラインを作ることでふわふわしているデザインにした。胸元の大きなリボンは多くの人から愛されるアイドルらしさを表現した。

カッコイイ系では後ろをロングスカートに、トップスはシンプルにしてカッコよく洗練されたイメージを持たせた。色はカッコイイ系のアイドルに多く見られた黒を選択した。袖をスリムな半袖にすることでよりクールで落ち着いたデザインにした。襟はスタンドカラーにし、前開きでボタンをつけた。プリーツスカートの上からオーバースカートを履き、ウエストにはチェーン付きのベルトをつけた。　プリーツにして縦のラインを強調させることによりスタイリッシュにカッコイイデザインにした。さらに、チェーンやスタッズをつけることでアイドルの力強さを表現した。

デザイン画を図３に示した。



①カワイイ系



②カッコイイ系

図３　デザイン画

4－2　パターン設計

デザイン画をもとにモデルの採寸を行い、文化式原型から展開しパターンを作成した。(図４)

①カワイイ系

②カッコイイ系

図４　パターン

4－3　完成作品

完成した作品を図５に示した。

①カワイイ系

②カッコイイ系

図５　完成作品

5．おわりに

本研究では、女性アイドルに関する調査を行った上で、理想のアイドル像を明らかにするとともに、KJ法によるイメージ分類と類型化の結果を参考にデザインを考え作品制作を行った。

これまではカワイイ系のアイドルが主流なことに対して、最近ではカッコイイ系のアイドルが際立ち、人気を集めていることから、カッコイイ系の衣装も制作しようと思い、2種類のステージ衣装を制作した。アイドルのステージ衣装ということから、照明や動きを考える必要があり、生地を2枚に重ね、遠くからでもシルエットや色がわかりやすいデザインにすることでアイドルがより輝くステージ衣装を制作した。細かい装飾や布量が多かったため苦労することが多くあったが、普段は着られないステージ衣装を作ることで特別感を感じながら制作することが出来た。

本研究が今後の衣装制作の参考になれば幸いである。

6．参考文献

1)日本語大辞典、株式会社講談社、1989年
2)植田康孝『アイドル・エンタテインメント概説(3)～アイドルを「推す」「担」行為にみる「ファンダム」～』、2018年
3) 松原千紘、水野みか子『70年代から現在に至るまでの女性アイドル像』
4）kyachi、アイドル衣装デザイン図鑑、玄光社、2018年
5）橘桃奈、つるしまたつみ、コスプレソーイング＆デザインBOOK、文化出版局、2020年
6）推し活マーケティングhttps://find-model.jp/insta-lab/marketing-my-